

和5年度（2023年度）第1回川口中学校区地域づくり推進会議 議事概要

日時	令和5年（2023年）6月17日（土）9:30～12:00
場所	川口中学校 東校舎1階 被服室
出席者	<p>参加者：荒井、荒木、稲原、久保、白鳥、田倉、外山、内藤（佳）、中村、平井、古田、前川、安田、山口</p> <p>高齢者あんしん相談センター川口：乙幡、小林、太田</p> <p>高齢者あんしん相談センター恩方：長内</p> <p>はちまるサポート川口：田中</p> <p>第1層生活支援コーディネーター：今泉</p> <p>川口中学校校長：鷺尾</p> <p>元八王子地域事務所長：田島</p> <p>住宅政策課：池田、小口</p> <p>青少年若者課（児童館）：井垣、山鹿</p> <p>地域づくり担当：新納、伊東、興梠、三井、橋本、松下、山北、和田</p>
配布資料	<ul style="list-style-type: none"> ・ 資料1 令和5年度（2023年度）の地域づくり推進事業について ・ 資料2-1 八王子市空き家マッチング支援事業のご案内 ・ 資料2-2 【第1号様式】利用希望者登録申請書 ・ 資料2-3 【第1号様式】利用希望者登録申請書（記入例） ・ 資料3 これまでの推進会議の姿と課題 ・ 資料4 部会報告 ・ 資料5 八王子未来デザイン2040に基づく地域づくりの推進について ・ 資料6-1 ワーク説明資料 ・ 資料6-2 ワークシート ・ 資料6-3 地域自治モデルの検討について ・ 資料7 令和5年度（2023年度）川口中学校区地域づくり推進会議年間スケジュール（予定）

1 開会

事務局より挨拶、資料確認

2 事務局からの報告

- (1) 令和5年度（2023年度）の地域づくり推進事業について
事務局から、令和5年度（2023年度）の地域づくり担当の執行体制及び地域づくり推進事業のスケジュールを、資料1をもとに説明。
- (2) 川口中学校区地域づくり推進計画（改定版）の配布状況について
事務局から、推進計画（改定版）について改定前のものと同様に、転入者への配布のほか、各事務所や市民センター等の市施設に設置していることを報告。
- (3) 八王子市空き家マッチング支援事業について
住宅政策課から、八王子市空き家マッチング支援事業の概要について、資料2-1、2-2及び2-3をもとに説明。
(説明内容)

- ・ 地域のための活動の場を必要としている団体等と空き家所有者のマッチングを支援するもの。利用には事前登録が必要。
- ・ 登録の要件として、地域のための事業であることなどがある。(資料2-1の裏面に記載)
- ・ 今年の3月から開始した事業であり、現在は、利用希望者の登録が4件、空き家所有者の登録は1件しかない状況。

(質疑内容)

- ・ 市はどこまで関わってくれるのか？
⇒ (市) あくまでも当事者間のやり取りになる。市としては用途地域の問題などがある際に、担当部署の案内をすることはできる。
- ・ 利用者は法人でなくてもいいか？
⇒ (市) 個人でも法人でも構わない。
- ・ 空き家を持っている人に市から通知を行い、空き家の利活用について意向の確認をすべきではないか？
⇒ (市) 今年度調査を行い、さらなる周知啓発を図っていく予定。

(4) 役員会での検討内容

役員会での検討内容について、資料3をもとに事務局から説明。

(説明内容)

- ・ 部会の活動を行っていく中で、現在の推進会議の組織の形では課題があることがわかってきた。(口座の開設や補助金等の活用など)
- ・ 市が設置する組織である推進会議とは切り離して、活動する組織をつくることで、機動的に活動ができるのではないかと。また、補助金など市の支援も行いやすくなると考えている。

(質疑内容)

- ・ イベント・活動する団体を新たにつくるのが難しいのではないかと。
⇒ (市) 団体を新たに作るために、必要な市の支援など、役員会を通じて検討していきたい。
- ・ 今でも様々な組織が活動しており、それを担っているメンバーも重複しているという状況。既存の団体を有効に活用するしくみづくりが必要ではないかと。
⇒ (市) 推進会議の場では、各団体から集まった参加者で議論した内容を必要に応じて、各団体にフィードバックしてもらうことを期待したいと考えている。そうした繋がりから生まれてくる活動をしやすくするしくみとしていきたい。
➢ 地域づくりは、既存団体の活動を団体間のさらなる連携によって充実させていくもの。新しい組織をつくるのではなく、既存団体が一層協力できる体制をつくる必要があるのではないかと。
- ・ 現状、町会に加入していない人も町会の活動の恩恵を受けられる。地域自治ということを考えていくのであれば、公平性のあるしくみづくりを行ってほしい。
⇒ (市) 公平性のあるしくみづくりに努めたい。
- ・ 地域自治において行政の一翼を担うようなこと(例：ハザードマップ作成)は「地域づくり推進会議」で行い、地域が自主的に地域課題を解決するための活動(例：マルシェ)は「活動・イベント等」の組織で行うというように分けていくのか。
⇒ (市) そのように明確に線を引くことは難しいと考えている。例えばハザードマップ作

成についても、市の補助金を受けて作成しようとなれば、「活動・イベント等」の枠の中で行った方がいい場合もあるかもしれない。そのため、その時々での判断になると思う。

- ・ 例えば、マルシェ部会が活動する際に使える助成金の制度が市にある場合に、推進会議のマルシェ部会が市の組織の中にあるものだとするとその助成金を受けられないから、切り離して活動したほうがいいのかということか。
⇒ (市) そのとおり。ただ、切り離したからといって、市が手を放すというものではない。会則などで市との関係性を整理していくことも考えている。
- ・ 市の組織の枠から出るということは、例えば名刺の住所や代表者など、別の課題も出てくると思う。
⇒ (市) 住所をどうするかなどは議論が必要だと考えている。本日いただいた様々な意見を整理し、また議論させていただきたい。

3 各部会における活動報告及び活動計画等の共有

各部会の活動状況等について、資料4の内容に沿って各部会より報告。

(1) マルシェ部会

5月13日、14日にはならはらマルシェと共催で第2回川口マルシェを開催した。共催としたのには、今後、川口と橿原が一体となって活動していくことを模索していくための親睦的な目的もあった。

<取組の効果>

- ・ 川口マルシェのInstagram等を見て、たま未来メッセで開催する「マルシェのマルシェ」から声掛けがあり、参加する予定がある。
- ・ マルシェはアルプスの敷地を使わせてもらい、2,000人の集客があった。
- ・ アルプスには、トイレなどの設備の使用や、金魚すくいの排水、電気の供給など、様々な協力をいただいた。アルプスからは今後も定期開催の打診を受けている。
- ・ 今後のマルシェで出店したいという問い合わせも受けている。
- ・ 今回、フリースクールにも声をかけて出店してもらった。マルシェを通して、このような地域で活動している団体の周知や、イベント会場で顔見知りになることでのつながりづくりも行っていきたい。

<大変だったこと>

- ・ 出店料の領収書の発行について、今回、市に相談して対応できたが、今後どうしていくかはまた相談したい。
- ・ 電話連絡先がないことの厳しさも実感した。SNSだけではなく、電話連絡先も必要。
- ・ 活動資金の保管先として、やはり口座の開設が必要。
- ・ 新しく出店依頼をする際に、自分たちがどのような団体なのかを説明する必要がある。身分が証明できるようにしてほしい。

<シェアしたいこと>

- ・ 今回のマルシェでは地域の中学生にもボランティア参加を依頼して、出店者のお手伝いなどをしてもらった。今後も地域子どもたちにも参加してもらえたらと考えている。

(2) 地域防災部会

- ・ 令和8年度（2023年度）までに、消防団の部単位での、中学校区内の詳細なハザードマップを作成することを目標として活動している。（今年度は既に3回活動を行っている。）
 - ・ 今年度の活動としては、①ハザードマップに掲載する情報の収集、②情報発信の場づくりを考えている。
 - ・ 6月9日には市の防災課からハザードマップの見方などを講義してもらい、部会内での知識の共有を図った。次回は、消防団の各部の部長などに来てもらい、地域の危険な箇所などを教えてもらう予定。
 - ・ また、ハザードマップのデータを提供してもらうことについて、防災課と交渉中。
- (3) 活動で使用する名刺について（事務局より）
 推進会議の活動で使用する名刺は、当面の間、市で作成する。必要な方は随時ご連絡いただきたい。

4 地域自治モデルの検討について

- (1) 八王子未来デザイン 2040 に基づく地域づくりの推進について、資料5をもとに説明
 (説明内容)

- ・ 2040年を展望すると、人口減や、それに伴う市の収入減による財政難など厳しい社会環境の変化が見込まれ、多くの課題が待ち受けている。地域が抱える課題も多様化・複合化しているなかで、地域がつながり、行政課題も共有しながら地域自治（「地域のことを自分たちで考え、ともに行動することで、みんなの幸せを実現していくこと」）を推進していこうというのが地域づくり。
- ・ 今の地域づくり推進会議がそのまま地域自治の組織となることは難しいかもしれないが、モデル地区において、八王子市の地域自治としてどのような考え方や組織が必要なのか等を考えていくための知見をいただきたい。
- ・ 今年度の進め方としては、アクションプランの進捗の把握及びアクションプランを通じたプラットフォーム強化を行いながら、それに加えて、地域自治モデルの構築を行っていきたい。最終的には資料5のP.14に示している『「地域自治」のための検討・整理事項の例』のような項目を整理したく、そのためのワーク等をやっていきたいと考えている。

(質疑内容)

- ・ 地域自治の検討は、推進会議の全体会の中で行うのか、別日で会議を設定するのか。
 ⇒ (市) この会議の中で行っていく。皆さんの負担とならないよう、事前ワークなども極力なくしたいと考えている。
- ・ 協議体をつくるという話が去年からも出ているが、そういったことをまとめていくということか。
 ⇒ (市) そういうことになる。例えば、財政難で行政サービス（ゴミ収集など）を減らさざるを得なくなったときに、地域でどのように対応できるかなどを話し合う組織にできるのかなど、地域自治における組織のあるべき姿などを皆さんと話し合っていきたい。
- ・ 現状の川口の課題（高齢化や交通の問題、獣害の問題など）を話し合いながら、それを踏まえて将来のことを考えていくならわかるが、現状の課題を置き去りにしていないか。
 ⇒ (市) 推進会議の中で、現状の地域の課題などを話し合ってください時間を設け、必要

があれば、市の担当所管と連携していくことも行っていきたい。

- ・ 地域づくりは市のすべての所管で連携して行っていくものだと思う。市のいろいろな部署から情報提供してもらいながら、地域の現状の課題を推進会議の場で話し合っていく時間はぜひ設けてもらいたい。
⇒ (市) そのようにする。
- ・ 市役所の中でも、地域づくりに対する理解に大きく差があると感じる。協働のパートナーとして地域自治と一緒に進めるうえでは、庁内研修を行うなど、地域づくりに対する理解促進に努めてもらいたい。
⇒ (市) 推進会議でどのような話や取組をしているということを庁内に広めながら、庁内の各所管を巻き込んでいきたい。
- ・ 行政に連絡する際、問い合わせ先が細かく分かれていてわからない。HP でもその情報にたどり着くのが大変。
⇒ (市) 市の中に総合的な内容を伺う部署はないので、電話いただいた場合も、案件ごとに担当の部署につなぐことになる。
 - 教育委員会ではPTA 会長であれば、市に問い合わせができるしくみができている。そういったものを作るのは難しいか。
⇒ (市) メールということであれば、市 HP 内の「各課へのお問い合わせ」をご活用いただきたい。

(2) 資料6 - 1をもとに、地域自治とは何かを考えるワークを実施
会議時間超過のため、個人ワークのみ実施。

5 推進会議の年間開催日程

会議時間超過のため、資料配布のみ。

6 閉会

以上